学童軟式野球
チーム活性化アンケート
まとめ

2020 年 2 月 25 日

昭島少年野球連盟

「学童軟式野球・チーム活性化アンケート　まとめ」の作成にあたって

はじめに，お忙しい中，このアンケートにご協力いただいた各連盟・各チームの皆様に御礼申し上げます。今回は，55 チーム，12 連盟の協力をいただきました。

そして，昨年 2019 年 7 月に実施したアンケート結果のまとめの完成が，諸事情により半年以上も遅れてしまったことに対しお詫び申し上げます。

さて，今回のアンケートは 2016 年に行った同様のアンケート調査の，その後の経過を見ることを目的に行ったものです。

この間，野球の置かれた厳しい状況は言われ続け，多くの問題点が指摘される中でルールの改正なども行われました。これらの状況も踏まえて，私たち学童野球に携わる者は，自分たちの存在意義や立ち位置を考え直さなければならない時期に来ているのだと思います。

皆様にご協力いただいた回答には，私たちが今後取り組むべきことへのヒントがちりばめられているような気がしてなりません。

なお，この「まとめ」を作成するにあたって，基本的には，いただいた回答をそのまま掲載していますが，スペースの関係上，選手数等の数字データは表にまとめさせていただき，自由記述回答は，質問項目ごとに羅列しました。しかし，まとめ作業時に書き写し間違いがあるかもしれません。また，前回のアンケートまとめ担当者と今回の担当者が変更になり，まとめ方が変わったこともあって比較しにくい面，まとめから欠落してしまった項目があります。

このアンケートのまとめは，何人もの目を通したわけではないため，入力・校正ミス等，不十分な点があるかもしれません。お気づきの点がありましたら，当連盟にお知らせください。

このまとめが，皆様にとって，少しでもお役に立てるものになりましたら幸いです。

なお，このまとめは，当連盟ホームページにて公表するとともに，可能な限り上部団体（東京都軟式野球連盟）やプロ野球関係団体等の皆様に見ていただきたいと考えておりますので（すでに了解をお願いしましたが），協力をいただいた各連盟・各チームの皆様におかれましては，ご承知おきください。

2020 年 2 月 25 日

昭島少年野球連盟　会長　福本道夫

目　次

【アンケート結果（各チーム）】

（ページ）

●５～６：学年ごとの選手数と総数，指導者数（2019 年）

●７～８：選手総数の 2015 年から 2019 年までの推移

●９～１０：選手確保のために力を入れていることは何ですか。

●１１～１２：選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

●１２～１４：選手減少の原因は何だと思いますか。

●１４～１６：チーム維持のために，上部団体（各地区の学童野球連盟や，東京都軟式野球連盟など）やプロ野球団体（NPB）への要望はありますか。

●１６～１９：選手の健康・未来を配慮しての球数制限等のルール変更がなされています。これらのルール変更に対するご意見をお聞かせください。

●１９～２０：その他，書き足りないことがあればお書きください。

【アンケート結果（各連盟）】

（ページ）

●２２：学年別選手数と選手総数推移（2015 年～2019 年）

●２３：選手確保のために力を入れていることは何ですか。

●２３：選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

●２４：選手減少の原因は何だと思いますか。

●２４：上部団体やプロ野球団体（NPB）への要望はありますか。

●２５：球数制限等のルール変更について，ご意見をお聞かせください。

●２５：その他，書き足りないことがあればお書きください。

●２６～２８：**私たち大人が子どもたちにしてあげられることは何か―「アンケート分析」に代えて―**

２０１９年

アンケート結果（各チーム）

●学年ごとの選手数と総数，指導者数（2019 年，順不同）

市区町村	チーム名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	指導者数
昭島市	昭島リトルイーグルス	0	1	10	12	11	11	45	20
	昭島ヤングライオンズ	4	0	6	6	8	6	30	9
	光華グリーンズ	2	3	6	5	8	3	27	10
	昭島美堀メッツ	3	2	4	3	6	11	29	13
	成隣ファイターズ	0	2	6	3	3	8	22	15
調布市	TOHO パイレーツ	6	3	14	16	13	15	67	40
	杉森クラブ	1	2	2	10	11	2	28	34
	調布ウイングス	2	4	6	5	8	10	35	16
	調布サンライズ	4	4	9	14	12	12	55	?
	調布ディアーズ	0	6	5	9	12	9	41	16
	調布フェニックス	0	1	1	9	8	5	24	12
	調布メンパース	1	9	8	14	11	17	60	50
	緑ヶ丘ジャイアンツ	2	5	5	13	15	13	53	32
瑞穂町	瑞穂NMB	2	1	3	3	2	5	16	16
	瑞穂ウルフファイターズ	5	3	10	6	5	12	41	25
	瑞穂ジャガル	3	8	4	5	2	6	28	15
三鷹市	井口ヤング	3	10	17	17	7	15	69	47
小金井市	サンファイターズ	1	4	2	4	5	5	19	20
	サンライターズ・ベースボールクラブ	0	4	1	6	10	5	26	21
	三小メッツ	2	2	13	10	13	10	50	50
	小金井アトムズ	0	5	5	12	10	11	43	37
	小金井ビクトリー	0	4	7	9	11	15	46	45
	南小レッドイーグルス	7	6	12	10	11	9	55	58
西東京市	けやきスラッガーズ	0	0	9	2	5	7	23	22
	西東京ツインズ	2	3	9	11	11	12	48	10
	田無エンジェルス	1	1	2	9	9	10	32	10
東久留米市	クラウン	0	1	4	10	14	7	36	24
	滝山ジュピターズ	0	9	3	8	15	11	46	30
	東久留米ハッピーズ	2	8	5	7	4	5	31	17
	野火止コンドルズ	2	3	6	5	11	6	33	20

●学年ごとの選手数と総数，指導者数（2019 年，順不同）

市区町村	チーム名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	合計	指導者数
府中市	九小 E ドリームス	2	2	5	8	7	5	29	20
	三小タイガース	1	0	3	6	5	7	22	20
	四谷スワローズ	0	3	4	6	17	11	41	32
	住吉ビクトリー	1	1	0	10	9	10	31	20
	新町トップスターズ	2	0	2	8	8	11	31	20
	二小ブラックイーグルス	3	12	11	16	13	6	61	30
	府ロクスポーツ少年団野球部	5	1	14	10	13	12	55	42
	府中一小サンボーイズ	3	14	8	12	8	6	51	45
武蔵村山市	グレートベアー	2	7	8	11	13	13	54	10
	パンサーズ	1	2	0	5	9	8	25	13
	新小鳩	1	1	6	4	8	3	23	5
	青空	1	1	3	13	9	10	37	30
	隼	1	2	7	2	2	7	21	10
	武蔵ライオンズ	0	1	7	6	2	11	27	16
	武蔵村山サンダース	1	2	1	1	1	9	15	15
	武蔵村山ファイターズ	1	6	4	3	6	8	28	10
立川市	上砂ファイターズ	4	2	3	5	6	11	31	20
	立川PWW	1	4	6	3	7	6	27	6
あきる野市	多西ヤングライオンズ	0	6	9	12	14	16	57	30
	秋川ファイターズ	4	5	3	5	6	3	26	10
	秋留台キングス	0	6	7	8	15	12	48	17
	増戸少年野球クラブ	2	6	8	8	9	12	45	30
羽村市	羽村西少年野球クラブ	3	6	9	14	12	13	57	38
	羽村タイガー野球少年団	2	1	7	6	11	0	27	19
	小作台少年野球クラブ	0	11	5	8	12	13	49	40

●選手総数の 2015 年から 2019 年までの推移（順不同）

市区町村	チーム名	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
昭島市	昭島リトルイーグルス	40	40	43	37	45
	昭島ヤングライオンズ	30	27	43	30	30
	光華グリーンズ	19	21	24	27	27
	昭島美堀メッツ	23	21	31	27	29
	成隣ファイターズ	20	24	25	28	22
調布市	TOHO パイレーツ	43	43	57	61	67
	杉森クラブ	35	36	32	29	28
	調布ウイングス	25	25	30	30	35
	調布サンライズ	45	46	47	46	55
	調布ディアーズ	50	50	50	50	41
	調布フェニックス	15	20	25	27	24
	調布メンパース	60	60	60	60	60
	緑ヶ丘ジャイアンツ					53
瑞穂町	瑞穂NMB	20	15	25	17	16
	瑞穂ウルフファイターズ	41	40	45	40	41
	瑞穂ジャガル	20	18	20	23	28
三鷹市	井口ヤング	43	36	53	67	69
小金井市	サンファイターズ	30	25	25	25	19
	サンライターズ・ベースボールクラブ	25	22	31	26	26
	三小メッツ					50
	小金井アトムズ	42	41	45	42	43
	小金井ビクトリー				45	46
	南小レッドイーグルス	45	45	45	45	55
西東京市	けやきスラッガーズ	15	18	22	30	23
	西東京ツインズ	32	37	32	37	48
	田無エンジェルス		30	38	32	32
東久留米市	クラウン	56	45	52	41	36
	滝山ジュピターズ	38	45	48	55	46
	東久留米ハッピーズ	30	31	29	30	31
	野火止コンドルズ	46	40	45	35	33

●選手総数の 2015 年から 2019 年までの推移（順不同）

市区町村	チーム名	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
府中市	九小Ｅドリームス	37	39	36	35	29
	三小タイガース	50	38	29	32	22
	四谷スワローズ	35	45	40	51	41
	住吉ビクトリー	41	47	45	50	31
	新町トップスターズ				33	31
	二小ブラックイーグルス	71	67	64	66	61
	府ロクスポーツ少年団野球部			61	61	55
	府中一小サンボーイズ	36	44	49	51	51
武蔵村山市	グレートベアー	32	37	39	57	54
	パンサーズ	23	27	24	25	25
	新小鳩	16	25	25	28	23
	青空	44	48	37	37	37
	隼	22	20	15	15	21
	武蔵ライオンズ	42	46	38	33	27
	武蔵村山サンダース	23	20	20	18	15
	武蔵村山ファイターズ	21	25	22	28	28
立川市	上砂ファイターズ	36	37	36	34	31
	立川PWW	32	30	28	26	27
あきる野市	多西ヤングライオンズ	34	42	48	42	57
	秋川ファイターズ	16	20	25	35	26
	秋留台キングス	35	32	36	40	48
	増戸少年野球クラブ	43	37	41	55	45
羽村市	羽村西少年野球クラブ	47	39	47	62	57
	羽村タイガー野球少年団	22	25	25	15	27
	小作台少年野球クラブ	45	43	52	48	49

●選手確保のために力を入れていることは何ですか。

・大会での好成績をおさめること，友達への声かけ，地域行事への参加，ポスター掲示，ホームページ
・保護者への呼びかけ　　・選手から友達への呼びかけ　　・他団体との合同体験
・初心者の子供に対しての野球体験入部を随時開催
・部員及び　その家族による地域の子供たちへ積極的な声掛け
・昭島少年野球連盟主催による野球教室への地域の子供たちへ参加の声掛け
・選手募集ポスターの掲示＝在籍選手が通っている小学校およびその学校近隣の商業施設等
・チラシの配布＝在籍選手が通っている小学校中心
・選手保護者の口コミ募集　　・ホームグラウンドでの体験会（年１，２回程度）
・学校，地域行事等での PR 活動，体験会イベント，野球教室，保護者による個別勧誘
・ご家庭，兄弟姉妹参加行事（モチ焼，BBQ，合宿，旅行）
・小学３年生以下の勧誘と３年生以下の大会の企画　　・体験会の実施
・2 年生以下はあまり拘束しないようにする。　　・最初は遊びの延長で入ってもらう。
・体験会（ただやってもダメ，形を変えないと？！）
・通常練習時のお茶当番等の廃止など父兄の負担軽減　　・低学年向け大会の開催
・調布・狛江・多摩・三鷹の連盟と協力した新人ジュニア教育　　・保護者同士での活動重視
・野球教室の開催，知人や友達からの勧誘　　・野球体験会の実施　　・小学校校庭での野球教室
・野球教室　　・野球教室の開催　　・地域での勧誘・体験会の実施　　・低学年向けの体験入部
・選手のやる気，個人の性格を見極めた指導　　・体験入部　　・ポスター掲示　　・チラシ配布
・選手募集チラシの配布　　・選手の親御さんへの野球への案内をしてもらう。
・小学校への入部案内等のチラシの配布　　・定期的な野球体験デーの実施
・地域のコミセン等への大会結果の掲載　　・親子が参加する催し物の開催
・小学校との連携　　選手個人の学校生活時・クラブでの様子を共有する。
・野球ができる施設等の環境整備の推進や維持を市等へ陳情
・プロや社会人野球選手等による野球教室の開催
・野球教室での一般学童の募集　　・低学年の T ボール大会の実施
・市内掲示板へのチラシ掲載　　・T ボール，ドッチビー，キックベースなどの遊びを通した勧誘会
・学校へのチラシ配布，HP 開設　　・野球体験教室の開催，小学校との連携
・低学年生向け野球関連イベント　　・学童保育との連携
・ポスター掲示・チラシ配布，体験会，子供同士の勧誘，親の繋がり
・低学年の選手募集施策の実施（T ボール大会，野球体験会の企画等）
・町連盟主催の大会プログラムに，保護者へ向けて選手確保のお願い文書の掲載。
・町のイベント（ウォーキング）へ全チームで参加協力し，ユニホーム姿で歩き，未就学児の親子や祖父母などからのお問合せに対して，自宅近くのチームや活動内容，　体験入部などをご紹介する。
・各大会の試合中の選手や応援席を撮影し，試合を見に来られない保護者や，写真撮影できない親スタッフにデータをフリーで閲覧させ，自分の子供の写真を楽しんでもらうことで，連盟への協力や他の選手へのつながりを広げ，しいては選手確保にもつながってもらえるよう思いを込めている。
・学校主催 T ボール教室の講師　　・体験会
・常に練習ができる環境を作る為のグランドの確保
・効果的に指導を行う為の指導者（保護者）の養成
・SNS（ホームページ，フェイスブック等）を活用したチーム広報
・運協と連携した野球教室の実施　　・体験会などの開催
・男女まんべんなく，募集をかける。
・体験会と父兄の繋がり。保育園，幼稚園の繋がりで園児の体験を募集
・広報活動（イベント，サイト，ブログなど）練習時間の短縮，学校内禁煙，暴言・暴力の禁止

・体験会の実施(数回/年対象全学年)　・学校行事への参加　・体験会の積極的実施
・グローブ，ユニフォーム，バット貸し出しによる費用負担の抑制
・チラシの作成，ポスターの作成　・2017 年から保護者の当番を廃止
・お茶出しが必要な場合はコーチがペットボトルで対応
・体験教室，子供たちからの手紙作戦，保護者の協力での声掛け，イベントを通しての勧誘
・マンション等の掲示板への募集ポスターの張り出し，ホームページでの募集
・勧誘イベント　・募集チラシを配ったり，保護者同士の口コミ等
・府ロクスポーツ少年団の説明会(毎年 4 月開催)での勧誘　・定期的な野球教室(体験会)の開催
・地元幼稚園，スーパー，地域センターなどへのチラシ貼り
・学内でのビラの配布　・地域のお店におけるビラの掲示
・ホームページ記載内容の充実（団としての運営方針を代表メッセージとして記載）
・保護者からの問い合わせに関して，即時対応　・体験会実施（スポーツフェスティバル）
・第一小学校他のスポーツ団体と合同開催　・校長先生のメッセージをチラシに掲載
・学校行事/PTA 行事/地域団体行事にも積極的に運営協力
・異なる学校による混成チームの参加等で，一人でも多く試合に参加ができるよう柔軟に対応
・各種イベントや他の大会への積極参加（野球教室や古稀チームとの親善試合，市主催のスポーツ関連イベント等）
・野球がやりたくなるような大会の運営と維持継続（秋季大会は 6 年生チームの総当たりリーグ戦の実施等）
・各チームの試合及び練習が出来るよう環境づくり　・部員募集のための体験会
・保護者，選手からの呼びかけ　・部員募集のチラシ配布
・３か月に一度くらいの体験会の開催　・学校の催し物(もちつき大会)などへのスタッフ参加
・現役選手からクラスメイトへ体験会へ誘う。　・父兄とのコミュニケーション
・学校行事等で知り合いの母と子が一緒にいるときに声を掛ける
・学校内で生徒間での声掛けの実施　・下の学年ほど楽しく仲間を引き込める環境をつくる。
・野球の楽しさ，仲間と一緒に運動できる喜びを与えたい。
・保護者(お母さん)達のお茶当番等の軽減　・定期的な体験会　・地域のイベント参加
・体験会イベント，勧誘チラシの配布（定期的），店舗へのチラシ貼り出し
・幼稚園（保育園）へのチラシ設置　など　・体験会　・宣伝（掲示物，フェイスブック）
・保護者の負担軽減　・知り合い，友人に声掛け　・初期費用を抑えるためリサイクルの活用
・体験会の定期開催　・低学年(3 年生以下)の獲得(ジュニアの活動強化)
・チラシ配布（イベント時等），父兄による声かけ，体験会
・活動小学校における，各行事に合わせた入部活動の推進。
・小学校の集会等で大会成績報告を行う等，チーム活動のアピール
・体験会，常に OK,チラシ配り，部員からの勧誘
・カラー写真付入団案内書作成配布　・随時体験会開催　・保護者同士での勧誘活動
・年３回程度の特定日での体験入部（学校や保護者を通して案内を配布）
・地域清掃，防災訓練等の地域行事へのユニフォーム着用での参加
・選手間，保護者間での勧誘活動　・楽しく野球をやれる環境づくり
・魅力あるチーム作り / 強いチームの育成
　① 充実した活動内容，環境など基本的な部分をしっかり運営する。
　② 経験豊富なスタッフの指導や活動拠点である小学校のご理解とご協力
　③ 野球以外の地域活動参加　/　勧誘チラシ等

●選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

・友達を誘いやすい雰囲気づくり
・チームを気に入ってもらう。　・野球以外のアトラクション等でつながりをつくる。
・地道な選手募集と声掛け運動　・行政のバックアップ（市報等による活動紹介等）
・女子の参加率向上　・選手友人間の勧誘・声かけ
・公の PR 活動（web 含む）と個別勧誘・口コミの両立　・強制ではない家族参加型の活動スタイル
・効果的なことは，簡単に見つからないが，チームの主たる指導方針が学年問わず「一貫していること」は大切。また，指導者の教育と保護者の理解は必要。
・オリンピックや WBB クラッシック等で野球・ソフトボールで日本が活躍すること。
・親が気持ちよく協力できるような環境とする。　・野球の人気
・選手個々への配慮あるコーチング　・楽しませる工夫，挑戦して少しでもうまくなる体験
・選手が楽しんで野球が出来る環境作り　・体験会・保護者とのコミュニケーション
・テレビでの野球放送の増加　・低学年から野球に触れる機会を作る。
・所属選手の兄弟及び友達への勧誘　・低学年が少なく苦慮しています。
・子供の数が減少　・父母への負担軽減　指導者のレベルアップ
・スタッフ，父母会が中心になり年に数回のイベント（部員募集）を開催
・野球教室の開催　・プロ野球選手が参加するイベント　・野球の楽しさを伝えるイベント
・各チームへの運営補助（資金面，運営面など）
・バーベキュー大会　・野球観戦（西武ライオンズ）　・焼き肉会（年 2,3 回）　・合宿（年 1 回）
・兄弟姉妹が継続して確実に入部できるよう働きかける。
・親が安心して子供を預けられると思うような指導者の育成。
・学校のクラス内における野球をしていることでのステイタス。
・保護者のクラブに対する認知と信頼。　・各チームへの野球教室等への参加案内
・子供たちが野球というスポーツは楽しいと思うような指導の実践
・現役学童の保護者会での勧誘・教育委員会との連携・グランド確保（練習・試合）
・チーム運営の抜本的改革，現役プロ野球選手による小学校訪問授業（各学校毎年１回以上）
・チーム内のコミュニケーション，野球をたのしめる環境づくり
・特に決め手がない，結局は人伝での勧誘が効果的か？
・今年は 3 年生以下の選手の団員確保が厳しく，効果的な方法が難しく感じています。
・何が良いのか模索中です。
・少年野球を通じた，子供達の教育を父母，指導者との連携（一体的，相互理解）による運営
・各保護者や選手の所属する小学校における同級生の勧誘。
・選手の兄弟で未就学児がいたら，小さい頃からスタッフが気軽に声をかけ，「グランドに来ると楽しい」と思ってもらうように努める。
・保護者ご本人の負担（父母会，土日の父親コーチや審判）への理解および協力する意識の醸成，負担の軽減。
・手軽にできるグランドなど，環境整備が必要。　・体験会の回数と，保護者の役割軽減。
・常に練習ができる環境を作る為のグランドの確保　・チーム方針を明確にし，選手の目線での指導
・幼少期から野球の出来る環境作り　・女子の人数を増やす。
・毎週体験を呼んでいますが効果的な方法は無く地道に募集続ける。
・それが分からないので，上記３にあるような取り組みを真面目に一生懸命やるしかない。
・保育園児又は幼稚園児の親子野球大会等の開催。工夫と囲い込みが必要。
・シーズンオフに，現役プロ野球選手，社会人や大学野球選手と学童との交流会の開催。
・当番廃止で入部のハードルを下げているが？です。
・野球は子供の健全な成長には欠かせないスポーツで，親子で楽しみながらできることを保護者に理解

を深めてもらうこと。特に年長，低学年からでも安全で楽しくできるし，仲間とともに子供の発育，成長には最適なスポーツと言う親の理解です。
・野球の楽しさを伝える機会の創出，父母の負担軽減　　・スポーツの他にいろいろな活動があるから
・定期的な野球教室(体験会)の開催
・野球チームの母，同学年の友人による野球教室(体験会)への勧誘。
・保護者の口コミ　　・保護者のニーズを運営に反映させていくこと
・保護者の負担軽減　　・他習い事との掛け持ち可能　　・上記内容を上手に情報発信していくこと
・チーム運営がうまくいっていること
・監督/コーチ/保護者のコミュニケーションが十分にとられていること
・子ども達が楽しみになるよう参加型企画の実施
・保護者の負担軽減のため，監督・コーチたちと保護者との密なる話し合いの実施
・野球に対する負のイメージ（きつい，厳しい等）の払拭　　・ＯＢ活用による指導者不足の解消
・チーム内の雰囲気を明るくし，選手，保護者が野球を楽しめる環境作り。
・野球を（ボールを使える）公園，広場が増えること。
・選手との対話，自主的に行動させるように指導。　　・野球に興味をもってもらうための働きかけ
・仲間を大切にさせる。　　・活気ある雰囲気　　・学校に協力してもらうこと
・学校・各地域に選手募集の呼びかけ　（チラシの配布　掲示物の設置　など）
・保護者の理解　　・チーム運営（指導）の努力　　・地上波での野球放送など
・保護者の協力　　・楽しく野球ができる環境　　・保護者の負担軽減
・初期費用を抑えるためリサイクルの活用　　・保護者間，子供間の口コミ
・父兄による勧誘，子供たちによる勧誘，小学校入学前の勧誘
・児童に野球をカッコいいと思ってもらえるようにプロ野球中継の拡大やオリンピック等球界全体での盛り上げ。
・指導者間での指導方針の一致。指導者と保護者間での指導内容で意見がまとまっていること。
・ある程度の強さ。混成でも大会に出れるので少なくても大丈夫で増やす。
・兄弟がいる児童に声掛け　　・女子児童に声掛け　　・卒団生の児童に声掛け
・体験入部と活動内容の周知　　・よりよい試合成績　　・地域行事への参加
・長所を伸ばすために褒めること
・ご兄弟（友達）/ 母親達のネットワークによる情報伝達
　　在籍部員選手の母から未入部の子の母への声かけ
　　(OB を含むお母さんからの紹介　・ご兄弟の勧誘・ご兄弟からの紹介)

●選手減少の原因は何だと思いますか

・公園での野球禁止・ゲーム等の普及。
・スポーツ含め習い事が多様化しており，競合先が増えている。
・野球に触れる機会の減少（テレビ放映や公園の野球禁止など）
・少子化　　・遊びとしての野球が身近でなくなったこと
・放課後，休日活動の多様化（スポーツ，習い事，塾 etc）
・児童を取りまく社会変化（地域，家庭，治安，気象 etc）
・現在，スポーツは，多様化しており，団体競技より個人競技に脚光が浴びているように感じる。
・団体競技は人間関係も複雑で車出しやお茶当番などで保護者間のトラブルの話も聞く。
・武道や文化的な習い事（塾・書道・ダンス・珠算等）に通っている子供も多い。
・家族で休日を過ごすことに重きを置いているケースも多くゲーム等 indoor 派もいる。
・野球そのものが昔ほどメジャーでは無くなっている。

・休日のスケジュールは縛られたくないというライフスタイルの浸透。　・児童数そのものの減少。
・ほかに習い事，塾，などいろいろやらせたい保護者からすると，野球の場合，土日が丸一日つぶれる場合が多い。
・他のスポーツに流れている。　・選手は順調に伸びている。
・スポーツの多様化，野球離れ。　・道具を揃えるのが大変，指導者不足。
・親，特に母親が面倒がっている　・サッカーの方が人気がある。
・スポーツの選択肢が増えた。　・子供の選択肢の増加　保護者の負担
・チームの内紛等　・ルールの複雑さ　・世界における野球のマイナーさ
・他の習い事との関係　・父母会や当番に対するイメージ　・指導者の減少
・保護者の理解や協力　・父母のお茶当番（親の負担）
・多種のスポーツに行ってしまう（近くにサッカー，バスケ，卓球クラブがある為）。
・子供達が野球が嫌いになるような練習や指導者の存在。
・子供たちのスポーツ離れ（面倒くさい）。　・親の野球離れ・ボールゲームの出来る広場の減少。
・選択肢の多様化。親世代の野球未経験。昭和時代のチーム運営，指導方法。
・子どもの人数減少，習い事など忙しい。　・親も忙しく子どもとのコミュニケーションがとれない。
・野球をする問ことに対する興味を持たない　・家庭の応援体制が得られない
・野球に興味がない子が多い。他スポーツなどの選択肢が多い（サッカー，バレー，バスケ，ハンドボールなど），少子化，など原因は多くあると思います。
・野球環境（練習，試合場所等）の制限，野球道具進化による高額化，父母達自身の関わり度，意識の低下（子供より自分の時間を持ちたい，お任せしたい等）
・様々な競技や習い事があり，選択枝が増えた（サッカー，バスケ，卓球，水泳など）。
・保護者の負担①（役割への協力や拘束時間）：野球で協力してくれる親は，地域の子供会等でも協力的である方が多く，野球以外でも忙しいことから，　その様子を見ている入団前の子供の親は，そのイメージから躊躇するところもあると思う。
・保護者の負担②（金銭的負担）：自分の子供の野球道具代はもとより，上部組織や各大会参加へ納める金銭もあり，チーム所属者数が少なくなると保護者負担も増えるため。
・TV 地上波で野球中継や珍プレー好プレーの番組も少なくなった。また，子供がゆっくり見られる時間にスポーツニュースは放送されない。(BS，有料チャンネル，22 時過ぎの放送は，家庭の事情で見られない子もおり，プロ選手・高校野球のかっこいい姿，野球のルールや楽しさが子供に伝わる機会が減った）
・逆に，若いプロ選手の戦力外通告や解雇などのドキュメンタリー放送が多くなり，親も子供も夢を追いかけ辛い世の中になった。
・サーカー等，スポーツが多様化している。　・保護者間の連携，コーチ間のコミュニケーション不足
・野球の認知度の低下　・野球ルールや決め事等の煩雑さ　・野球備品の高騰化
・保護者の当番負担　・少子化　・親の意識の変化
・スポーツをさせたいと思う親が少なくなって来ている。
・児童数の減少，スポーツとしての野球の魅力，野球へのマイナスイメージ，クラブの悪評
・昔に比べて，幼少期からの他スポーツ人口が増えている(スポーツの多様化)
・プロ野球中継が地上波で激減していること。
・公園，広場等でのボール遊び禁止で幼少期からの野球に触れる機会が少ないこと。
・趣味の多様化　・共稼ぎによる親の負担　・初期コスト，ランニングコストが高めである
・保護者のスポーツ経験が少なく子どもが入部すると保護者の負担が大変と思われていると思うのと，キャッチボールのできる公園が少ない
・保護者の野球への関心がスポーツの多様化によって薄れてきたこと
・父母が入部に対して抵抗感をもつこと　・少子化
・興味，スポーツの多様化（野球のメディア露出の減少，興味の減少）

・親の負担が大きいというイメージ　　・指導者減少
・指導者１人への負担の増加　　・少年野球に関する保護者の過剰負担のイメージ
・少子化さらに少年スポーツの多様化　　・保護者の時間的余力の減少
・一部の指導者の誤った理不尽な指導
・プロ野球のメディア露出の減少と「戦力外通告」など負の番組の増加
・スポーツの多様化（サッカー，バスケ，ダンス等）　　・親の負担（お茶当番，車出し等）
・習い事の多さ（塾，水泳等）　　・子供の野球離れ，習い事の種類の増加
・親世代が野球のみの頃の世代で無くなり，親世代がサッカーをしていた世代
・野球全体の（特に学生野球の）イメージが現世代に受け入れられていないこと
・野球以外のスポーツが増加　　・道具準備に資金がかかり気軽に始められない
・拘束時間が長い　　・少子化　　・監督，コーチ陣の厳しい指導　　・親の負担の大きさ
・親の協力　　・他のスポーツの発展と選択の増加　　・生徒数の減少
・野球以外のスポーツ団体の増加
・保護者の理解①学童野球に対する誤解した認識や噂でやらせない。②子供はやりたいが保護者自身の時間を取れることによる拒否感。
・他のスポーツの人気・少子化　　・厳しい練習のイメージが強い（泥まみれ）
・保護者の負担が大きいイメージ　　・初期費用が掛かる　　・スポーツ活動の多様化
・子供の減少　　・子供の人数の減少，趣味や習い事の多様化
・地域環境の変化等で平日に野球が出来る場所がほとんどなく，野球を通じての遊び等ができない。
・児童の絶対数の減少。　　・塾等の習い事の増加やスポーツの種類の多様化。
・親の当番等，月１回位ですが，大変に思われている。～しかし入部すると，親がハマる。子供の成長を見れるから。
・児童数の減少　　・他スポーツ増加　　・野球離れ
・体を動かすことが苦手な子供が多い（学校からの活動制約が多すぎる）
・保護者の支援が多い（車出し，食事準備，資源回収やクラブイベント等の参加）
・道具準備や活動にお金がかかる
・プロ野球～少年野球までの認知度が低下していること
・児童数自体の減少　／　スポーツ（習い事）の多様化（選択肢が増えている。）
・野球人気の低迷。
・スポーツ（体を動かす）より頭を動かす（ゲーム・塾）の傾向がある。
・当番が面倒という先入観やロコミ，　誤情報

●チーム維持のために，上部団体（各地区の学童野球連盟や，東京都軟式野球連盟など）やプロ野球団体（NPB）への要望はありますか。

・連盟等の団体だけでなく，各チームでの野球教室（アマチュア・プロ問わず）の実施
・子どもたちおよび父母が野球に触れる機会の増加
・テレビでの試合放映，球場への招待　　・YouTube の活用
・野球体験会や講習会の開催（プロ野球選手による体験会や女子プロ野球選手による女子向け体験会等）
・有益な情報の共有　　・組織団体を超えた選手育成の仕組み作り
・勝ち負け以外の受賞機会（敢闘賞 etc）の拡充
・東連：大会参加費（準加盟支部 25,000 円）役員・審判員登録費（全軟連含）等，結構な支出となる。また，学校行事に対して理解が感じられない。
・野球のステータスを上げる。　　・むやみに大会を増やさないようにする。
・使用できるグランドの確保への支援　　・選手とプロ野球選手との交流の場を作る。

・野球だけの活動ではなく，地域・ボランティア活動を積極的に行う
・プロ選手と子供の交流会　　・指導者育成，チーム対象学校割の再検討
・少年野球のアピール方法を考えて頂きたい。　　・小学生への野球教室，選手との交流
・昔ながらの指導方法や父母の負担
・プロ野球選手が参加するイベントや野球の楽しさを伝えるイベントの企画
・プロアマの枠を超えた野球普及活動　　・各チームへの運営補助（資金面，運営面など）
・各地区への上部団体野球教室の開催　　・プロ野球選手による各小学校への野球教室
・上部団体は多くの配慮を続けている。さらにと言うことはあるだろうが，まずは，各地域のクラブチームを充実させることが第一。
・子供達がもっと夢を持てるような大会やイベント等の企画開催
・有名プロ野球選手などの野球教室の充実　　・登録費の無料化　等
・現役プロ野球選手による小学校訪問授業（各学校毎年１回以上）
・スポーツメンタルコーチ等の活用ができる仕組み（チームはお金がないので，お金負担は上部団体や，NPB などからの支援で賄う）
・野球（スポーツ）を楽しめる環境づくり
・小学校単位で体験授業など多くの子供に野球を体験できる授業など（ＪリーグのＦＣ東京はやっている）
・東京ドーム，神宮球場等プロ野球も利用している場所での試合の増加⇒子供達の気持ちが全然違います。
・子供の体の成長と野球の関わり等，理学的な講習会を指導者，父母へ行う機会を各市部等へ拡げていく（回数を増やす）ことで投球制限等への理解を得る営みが必要と考えます。
・購入すべき物品や参加費等の高額化の抑制。　　・プロ，アマの枠を超えた野球普及活動。
・プロ野球選手や甲子園有名高校の選手（ユニホーム姿）が参加するイベントや野球教室の企画。
・役員や子供の少ない零細支部でも運営できるような人・モノ・金銭的補助。
・（上記「５」の）野球中継や野球教室番組等，野球関連の放送内容や機会の工夫を。
・プロでは，不祥事を起こさないこと。　　・下級生をしごくなど，封建的な雰囲気をなくすこと。
・プロ野球の試合観戦の招待など，子供達がみんなで野球を見る環境作りを期待します。
・野球が行えるグランドの確保，整備
・低学年や初心者に対する更なる普及活動（イベントや野球教室の実施，観戦チケットの配布等）
・普及活動の増加　　・地区ごとのスポーツ障害に対する講習を更に詳しくお願いしたい
・チームでは体験等をして部員を増やす努力をしていますがので，連盟や NPB は野球をしていない子供を呼んでの各支部でイベントをする。
・野球教室はプロ野球の OB の年寄りが行っても子供は喜ばないためプロもアマも現役の選手が野球教室を行うようにする。
・様々な大会で運営スタッフが年寄りばかりという印象を受けます。サッカーやバスケットなどのように若いスタッフを育てることが野球のイメージアップにつながるのかもしれません。
・現プレーヤーによる野球教室(OB だと現小学生は知らない⇒興味なし)や未就学児を対象とした野球教室(遊び)，など幼少期から興味を持たせ触れさせることが大切ではないかと思います。
・シーズンオフに，現役プロ野球選手との交流会の開催
・シーズンオフ期間に，ロッテの選手は保育園や学校に遊びに行くと聞いたことがあります。
・地元だけでなく，他の街にも来て欲しいです。
・社会人野球や大学野球選手にも，学童に対し社会貢献して欲しい。
・野球教室を数多く開催してほしい（特に低学年の親子参加型）
・有名選手による野球講座の開催など，子供に夢を与えるイベントの開催
・プロ野球オフシーズンにおける野球教室や体験会の開催
・指導者育成，審判育成の仕組みづくり

・野球人口増加につながるようなキャンペーンや，全国的な運動にするための芸能人，有名選手などの積極参加
・野球を通じた子どもたちの育成および地域社会への貢献が学童野球チームの存在意義だと考えており，当団体ではその考えに基づいて運営を行っている。そうしたチームの後方支援として上部団体としてどういう策があるのかお聞きしたい。
・指導教室および機材の支援，資金面の支援や，NPB 選手との交流があるとありがたい
・現役プロ野球選手と身近に感じることができるようなイベントの実施
・指導者の意識改革と育成の強化　　・野球のできる環境作りの推進
・野球指導者の指導，育成の強化　　・現役プロ野球選手による野球教室の実施
・テレビなどでの野球を見る機会が減っている
・小中学生が当面の目標としているであろう高校野球から変わって欲しい
・坊主強制や女子部員，マネージャーの活動が制限されるなど，「厳しい」イメージが先行している感があり，少年野球の目標になりづらいのではと思います
・試合数の減少を抑える。野球教室の開催。　　・学校でスポーツに触れる機会を増やす
・交流の場等イベントを多くしてほしい
・プロ野球が観戦できるよう，各小学校への観戦チケットの配布
・上部大会以外にも選手・保護者が楽しめる行事があると良いと思います。
・地上波放送の充実，プロ野球選手（OB ではなく）の野球教室開催など。
・合同チームの参加承認，プロ野球テレビ放送
・野球では今年からＪ球に変更になったが，Ｊｒの選手にはＪ球は大きく故障の原因になりかねない為，Ｊ球よりひと回り小さいボールがあれば低学年の子供達への故障減少に繋がると思う。
・野球教室の開催を増やしてほしい（プロ選手でなくてもいいので）
・プロ野球の無料観戦　　・プロ野球 OB によるイベント開催
・公認指導員制度は理解できるが，指導者も仕事を行っている中でのボランティア活動に追加して，指導員講習会は時間的，金銭的なハードルが非常に高い。
・講習日時の増加，講習時間の簡素化，金銭負担の削減等ないと，選手減少だけでなく指導者減少でチーム活動が存続しづらい。
・もっと昭島，立川，あきる野，の球場で　プロの野球教室をしてほしい。
・野球継続・野球人口増加の為に，出来れば無料にて野球教室開催・サイン会を実施して欲しい。(現役選手の参加を)
・地区連盟を運営するにあたり，各チームが負担する役割が多い
・都大会への参加費負担が多く，審判派遣や講習会参加等の行事が多い
・西多摩地区へのプロ野球・大学野球などの指導が少ない。
・野球を始めたいと考えている子どもや保護者を対象に，定期的に野球イベントを開催してほしい。
・グラウンド整備のための道具や倉庫の補助をしてほしい。
・野球イベントや野球教室の実施，プロ野球観戦招待など機会を多くしてほしい。
・指導者講習会の実施（野球技術だけでなく，怪我対策やチーム運営を含めた講習等）

●選手の健康・未来を配慮しての球数制限等のルール変更がなされています。
これらのルール変更に対するご意見をお聞かせください。

・一部の選手への肉体的な負担が減ること，多くの選手の出場機会にもつながることから，良いことと感じる。ただしその投球数が適正かは，今後検討の余地が十分にあります。
・選手の将来・怪我防止には必要であると考えます。
・部員が少ないのに大変と思いますが　健康を第一に考えて賛成です。

・学童野球での身体負担軽減により，永く野球を楽しんでもらえる形への制度変更と捉えていますので良い取り組みかと思います。
・チーム運営という観点では３番手ピッチャーの育成が必須となり，苦しい采配となるケースも出てきました。″
・投球制限などの狙いと有効性（科学的根拠）を判り易く示してもらいたい。
・学童オリジナルのルール検討も　　・投球制限は，時代の流れでしょうか
・複数ピッチャー器用という観点で賛成
・ただ中学・高校まで行くとファールによる球数増などが容易に考えられ，他のルールとの併用（ファール数の制約など）の対応が必要
・小学生では必要と思う，主催者によってマチマチなので連盟等横のコンセンサスが必要
・選手の健康を守るため，球数制限は必要だと思う。 ただ，それだけで良いかは疑問が残るのでよりよい制度にしてもらいたい″
・ルールの変更は仕方ないと思います
・球数制限等の子供達を守るルールは必要だが，連盟により実地が違っているのが問題
・良い事だと思うがチーム格差が広がる。　　・身体優先で良いと思います。
・選手の健康管理と試合の公平性を両立できるようにもう少し議論が必要
・子供の負担が減り良かったと思います。　　・とても良い事
・球数制限は基本反対ですが，現状選手の人数によっては厳しいかも知れません
・せめて，イニング数，季節による試合時間の短縮が望ましいと思います。
トーナメント大会等におけるダブルヘッター時の投球制限について課題を感じる。選手が少ないチームに対する配慮が必要である。チームの力関係の差が浮き彫りになる。
・大賛成です。故障等で夢を途中で諦める様な事態は避けるべきと思います
・賛成　　三部オレンジボールの広域大会がほしい。・・・底辺を広げる。
・大賛成です。小学生の中にも肘の手術をしたことがある人が何人かいると聞く
・小学生の投球制限は良いと思います。故障者を小学生のうちから出してはいけない。
・小金井支部は 2019 年度夏季大会より投球制限導入しています。
・少しずつでも，球数制限等のルールをより良いものにしていくこと。指導者の知識底上げ策やケア方法，身体的なことだけでなく，メンタル的なことも。
・指導者に球数制限の意義，過度の負担を与えないような指導方法の工夫
・難しい問題かと。試合の投球数だけを規制して根本的な選手の健康を守れるのか。
・試合前の練習時間の長さ，投球数を規制せず，練習で調整を頑張った投手が試合で 70 球しか投げられないなど。
・今年から導入した球数制限は怪我防止策としては選手を守るのに必要。ただ，選手数の少ないチームは複数の投手育成に時間がかかりいざ試合となると試合にならないこともでてきている。選手層の薄いチームは苦労していると思う。なので，学年チームから複数学年チームに移行することも検討している。
あと，大会のスケジュール上やむを得ない事は承知だが，今般の猛暑の中の試合は体のできていない小学生には酷な事もある。
・投球制限には賛成。但し，目的を理解してもらうための正しい知識のレクチャーも必要。上記６の要望です。
・球数制限については，賛成しつつ，一日１試合であっても選手が少ないチームの苦労や，トーナメント大会等におけるダブルヘッター時の投球制限について課題を感じる。
・選手が少ないチームに対する配慮が必要である。チームの力（選手数）の差が浮き彫りになる。
・当然のことと理解しています。
・制限後肩・肘の不調を訴える選手がいないし，投手を作る大変さはあるが，投手を出来る環境となり選手のモチベーションアップにつながっていると思う。

・球数を制限する前に正しい投げ方やケガをしない体づくりの指導の周知，徹底が先であると考えます。
・良いことと思います。
・大会スケジュールの過密さの緩和。
・30 数年チームを見てきましたが学童野球で我がチームでは肩，肘の怪我をした事はありませんでしたが良いと思います。
・学童で肩，肘の怪我をする場合は練習以外に親が過度に練習させる事で怪我をしてしまった事は良く聞くことがあります。やりすぎの親の責任です。
・肩，肘を怪我したと良く効くのは聞くのは中学の硬式野球に行ってから怪我をしたとは良く聞きます。投球制限は中学以上の硬式野球には必要と思います。
・ルールの変更もよいが，地域ごとに定期的な専門医による肩・肘などのメディカルチェックを行う仕組みを作っていただきたい。選手は試合に出たいので「痛くない」「少し痛いけど平気」と言います。
・近所の医者に行かせてもうまく説明できず，復帰してもまたすぐ故障することもあります。
また，時期により大会が重なり過密スケジュールになることも選手の肩や肘に負担をかけます。1 学年では選手が足りずチーム運営ができないクラブが続出している現状では大会を高学年と低学年の 2 つに分けるとか，5-6 年／4-3 年／2 年以下などに分けるとか，これまでやられてきたことを一度見直して本当に野球というスポーツに子どもが入ってきやすい環境とは何なのかを考えていただきたい。
・基本的には賛成しますが，人数が少ないチーム等には不利に動く傾向があるのでは?
・勝負にこだわる意味ではなく，選手が少ないとゆうことは比例し指導者も少なく行き届いた指導ができないのでは?
・ルール変更より先に，学童野球の普及が先行すべきではないでしょうか?
・早めに告知をお願いします。
・3 年前に 70 球程度の投球をと唱える保護者がいたので，あまり抵抗はないが実際はたいへん
・子供の将来を考えると大いに賛成です　　・選手の健康，将来のためによい流れだと思う。
・いいことだと思います。投手の肩は消耗品と考えているから
・子どもの健康が第一であるため異論はない。
・球数制限の影響により，より多くの投手を育てておく必要が出てくるが，選手人数が少ないチームにはマイナス影響がでて，結果として球数制限が廃止されないことを願う。
・選手の将来を考慮するとよい指標だと思いますが，もう少し球数を増やしても良いと感じます。
・バッテリーの交代となると捕手も投手と同じぐらい投げることがあるので投手だけを制限しても健康面の解決にはならないと思います。
・球数制限は必要とは考えるが，１学年５名のチーム構成では，３～４名の投手をつくるのは厳しい。制限をすることで更に強いチームとの差が広がる。
・賛成です　　・方向性は正しいと思います。制限数が少なすぎるとも思っています。
・普段の練習の際に留意すべきで，試合での制限数は多少多めでも良いと考えています。
・球数制限は必要だと思う。　　・子ども達が無理をしないようにブレーキをかけるためにも必要
・とてもいいと思う
・選手の将来性を考え，ルール変更をしていくことは重要であると思います。
・東連は７０球制限をしている割には１日２試合の強硬スケジュールがあり矛盾している。
・選手の未来を考えれば，球数制限はいいことだと思うが，部員数の少ないチームは，
・現状としては試合に勝つ事ができなくなり，部員減少に繋がってしまうのではないかと心配している。
・一定の理解は示しますが，敏感になり過ぎている感じがします。
・学童では必要，ピッチャーの育成を指導者は心掛ける。
・選手が将来に渡り，野球継続出来る条件つくりは賛成だが，球数を増やして投手交代する作戦等起きると野球の魅力が半減すると危惧します。
・良いとおもいますが，球審も，もっとうまく成らなければ。
・良いと思います。（全軟連・東軟連に準ずる）

・球数制限により投手の肘・肩の負担は軽減できますが，捕手もほとんど同数を投げることを考えると投手だけではなく捕手も球数制限が必要と思います。
・１日のうちに複数の大会を掛け持ちで投げる投手がいるため，その大会だけではなく全ての大会で球数を共有・管理する必要があると思います。
・球数制限のルールに賛成です。
　記述の通り，選手の健康・未来に配慮しているため。
　複数名の投手を育成する必要があるということは，控え選手の可能性を探ることが可能であるため。
　選手の健康や未来を配慮するばかりに１試合の球数制限を 70 球にするのは現段階では厳しいかと思います。子供達の気持ちは投手で，4 番打者で，主将みたいな憧れから来ています。プロ野球のように年間 130 試合行うわけではなく，学童野球はトーナメントですので，負けてしまったら大会終了となります。子供達が減少する中，チーム作りの監督や子供達のモチベーションを損なう事に繋がらないでしょうか。球数制限ではなく，2 試合連続の投球禁止や 1 試合/日の投球制限等の緩やかな方策かと思います。大会運営でスケジュールが延びる傾向となります。
　将来的には 1 試合の投球制限ルール適用が望ましいかと思います。

●その他，書き足りないことがあればお書きください。

・上部大会へのチーム選出が最優先となり，選手ファーストが失われてないか？
・少年野球の指導の現場では旧態依然とする指導も散見される。
・現代の子供たちにあった近代的な指導と振興が出来ないかと思う。
・運営側，一部の指導者は旧態依然の考え方が残っており考え方の変化が必要。
・野球のルール上，一度ベンチに退いた選手（交代）は再度試合に出場できないルールだが，学童野球に限っては再度出場できるルールがあれば良いと思う事がある。経験を積ませる，出場機会が増えるなど。
・地元支部の大会はもとより，様々な組織が子供たちのために大会を実施してくださることは，とてもありがたいことですが，天候や学校行事により各大会日程がずれたり，詰まったりすることで，一日に大会をハシゴするチームもあり，せっかく投球制限を設けても，選手への負担はあまり変わっていない気もします。また，各大会役員や帯同するスタッフの負担も相当かと思われます。
・ボランティアで携わる役員も高齢化しつつあり，選手も役員も活動環境が厳しくなっていると感じます。
・チーム数や選手数が少なくなった今，このアンケートをしていただいた昭島連盟の皆様に敬意を表します。他支部の取組みを参考にさせていただくとともに，各支部と共同して発展できるようになることを望みます。″
・サッカーのいいところを取り入れる。
・各地区の少年部，シニア・中等野球部等，各団体との連携や積極的な交流が必要であると感じます。軟式，硬式の違い等もありますが，もっと連携，交流，情報開示を図るべきであると考えます。
・少野連の運動会とスポ少の運動会は合同でやってほしい。そのほか，秋に行事が多すぎてその皺寄せで，試合が過密日程になってしまうこともあります。どうしてもやった方がよい行事は残すべきですが，市内のクラブ全体をみて，ためにならない行事はやめる勇気も必要と思います。
・もっと「子ども達ファースト」で考えていただきたいです。
・その他コーチからの意見として，以前に比べるとチーム内に女子選手が増えているので，甲子園的な女子が目指せるものがあれば，女子の野球人口も増えるのではとの意見もありました。
・当団体の運営方針を「野球を通じた子どもたちの育成および地域社会への貢献」としており，毎年の総会にて代表より改めて運営方針の説明を実施。学年毎ではなく，チーム全体としての一体感を創出するために監督間のコミュニケーション機会の増加やチームビルディングの要素を取り入れたイベン

トを実施。子どもも大人もチームに関わることでプラス（得るものがある）になるような運営を心がけている。

・子どもが野球に触れる機会や，やれる環境を市や学校の協力で増やしてもらいたい。
・コーチ陣などに指導の勉強会を開いてもよいと思う
・各チーム団体への給付金等
・野球やサッカーなどをできる公園や空き地が殆どない。（環境が悪すぎる）
・グランドを増やしても欲しいが，子どものスポーツ団体から施設使用料を徴取せず，無償化を願う。
・父兄以外のコーチ・スタッフ不足も課題
・主将の 10 番を止めて欲しいです。背番号はポジション別が良い。
・各市町村連盟の統合（近隣連盟の）
・昭島連盟の皆様，少年野球の活性化にご尽力頂きありがとうございます。
・少年野球クラブに入部する父母の考え方に違和感を感じます。

当クラブでは余り感じませんが子供達をクラブに預け，後は無関心の父母や，また，逆に執拗にクラブ運営方法にクレームを入れる父母がいます。

無関心な父母に対しては子供がグランドで活動している姿を見て，他の子供との差　　を感じたり自宅での野球談議をしてもらいたい。

また，クレームを入れる父母には野球に限らずスポーツを行うためのルールを徹底　　する必要があり，特に安全については子供達に荒げて言動で注意することもあります。大会の進捗によっては食事の時間帯や食べる量が変わる事もあります。

入部する際は父母が子供と話し合い入部するクラブの活動方針等を理解して頂きたいと思います。

２０１９年

アンケート結果（各連盟）

●学年別選手数と選手総数推移（2015 年～2019 年）

		学年別選手数（2019 年 6 月現在）						選手数推移（年度）				
市区町村	チーム数	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	6 年	2015	2016	2017	2018	2019 6 月現在
あきる野市	9							222	252	258	285	293
調布市	9				142	64	134	311	317	331	331	340
三鷹市	15	12	25	81	110	107	121					456
小金井市	23			78	62	81	74	300	320	320	300	295
瑞穂町	3	10	12	17	14	9	23	81	73	90	80	85
西東京市	15	21	45	75	93	96	110	419	449	465	440	440
武蔵村山市	8	8	22	36	45	50	69	223	248	220	241	230
昭島市	6	9	8	32	29	36	39	102	133	166	149	153

●選手確保のために力を入れていることは何ですか。

・小学３年生以下の勧誘と３年生以下の大会の企画
・低学年向け大会の開催　調布・狛江・多摩・三鷹の連盟と協力した新人ジュニア教育
・野球ができる施設等の環境整備の推進や維持を市等へ陳情」
・プロや社会人野球選手等による野球教室の開催
・野球教室での一般学童の募集・低学年のＴボール大会の実施
・市内掲示板へのチラシ掲載　等
・町連盟主催の大会プログラムに，保護者へ向けて選手確保のお願い文書の掲載。
・町のイベント（ウォーキング）へ全チームで参加協力し，ユニホーム姿で歩き，未就学児の親子や祖父母などからのお問合せに対して，自宅近くのチームや活動内容，体験入部などをご紹介する。
・各大会の試合中の選手や応援席を撮影し，試合を見に来られない保護者や，写真撮影できない親スタッフにデータをフリーで閲覧させ，自分の子供の写真を楽しんでもらうことで連盟への協力や他の選手へのつながりを広げ，しいては選手確保にもつながってもらえるよう思いを込めている。
・異なる学校による混成チームの参加等で，一人でも多く試合に参加ができるよう柔軟に対応
・各種イベントや他の大会への積極参加（野球教室や古稀チームとの親善試合，市主催のスポーツ関連イベント等）
・野球がやりたくなるような大会の運営と維持継続（秋季大会は 6 年生チームの総当たりリーグ戦の実施等）
・各チームの試合及び練習が出来るよう環境づくり

●選手を増加，または，選手数を維持させる効果的な方法は何だと思いますか。

・効果的なことは，簡単に見つからないが，チームの主たる指導方針が学年問わず「一貫していること」は大切。また，指導者の教育と保護者の理解は必要。
・オリンピックやWBCクラッシック等で野球・ソフトボールで日本が活躍すること。
・選手が楽しんで野球が出来る環境作り
・各チームへの野球教室等への参加案内
・子供たちが野球というスポーツは楽しいと思うような指導の実践
・現役学童の保護者会での勧誘・教育委員会との連携・グランド確保（練習・試合）
・各保護者や選手の所属する小学校における同級生の勧誘。
・選手の兄弟で未就学児がいたら，小さい頃からスタッフが気軽に声をかけ「グランドに来ると楽しい」と思ってもらうように努める。
・保護者ご本人の負担（父母会，土日の父親コーチや審判）への理解および協力する意識の醸成，負担の軽減。
・手軽にできるグランドなど，環境整備が必要
・子ども達が楽しみになるよう参加型企画の実施
・保護者の負担軽減のため，監督・コーチたちと保護者との密なる話し合いの実施
・野球に対する負のイメージ（きつい，厳しい等）の払拭
・ＯＢ活用による指導者不足の解消

●選手減少の原因は何だと思いますか。

・現在，スポーツは，多様化しており，団体競技より個人競技に脚光が浴びているように感じる。
　団体競技は人間関係も複雑で車出しやお茶当番などで保護者間のトラブルの話も聞く。
　武道や文化的な習い事（塾・書道・ダンス・珠算等）に通っている子供も多い。
　家族で休日を過ごすことに重きを置いているケースも多くゲーム等 indoor 派もいる。
・他のスポーツに流れている　　・子供達が野球を嫌いになるような練習や指導者の存在
・子供たちのスポーツ離れ（面倒くさい）　　・親の野球離れ・ボールゲームの出来る広場の減少
・様々な競技や習い事があり，選択枝が増えた（サッカー，バスケ，卓球，水泳など）。
・保護者の負担①（役割への協力や拘束時間）：野球で協力してくれる親は地域の子供会等でも協力的である方が多く，野球以外でも忙しいことから，その様子を見ている入団前の子供の親は，そのイメージから躊躇するところもあると思う。
・保護者の負担②（金銭的負担）：自分の子供の野球道具代はもとより，上部組織や各大会参加へ納める金銭もあり，チーム所属者数が少なくなると保護者負担も増えるため。
・TV 地上波で野球中継や珍プレー好プレーの番組も少なくなった。また，子供がゆっくり見られる時間にスポーツニュースは放送されない。(BS，有料チャンネル，22 時過ぎの放送は，家庭の事情で見られない子もおり，プロ選手・高校野球のかっこいい姿，野球のルールや楽しさが子供に伝わる機会が減った）
・逆に，若いプロ選手の戦力外通告や解雇などのドキュメンタリー放送が多くなり，親も子供も夢を追いかけ辛い世の中になった。
・サーカー等，スポーツが多様化している。　　・少子化さらに少年スポーツの多様化
・保護者の時間的余力の減少　　・一部の指導者の誤った理不尽な指導
・プロ野球のメディア露出の減少と「戦力外通告」など負の番組の増加

●上部団体やプロ野球団体（NPB）への要望はありますか。

・東連：大会参加費（準加盟支部 25,000 円）役員・審判員登録費（全軟連含）等，結構な支出となる。
　また，学校行事に対して理解が感じられない。
・選手とプロ野球選手との交流の場を作る
・子供達がもっと夢を持てるような大会やイベント等の企画開催
・有名プロ野球選手などの野球教室の充実　　・登録費の無料化　等
・購入すべき物品や参加費等の高額化の抑制。　　・プロ，アマの枠を超えた野球普及活動。
・プロ野球選手や甲子園有名高校の選手（ユニホーム姿）が参加するイベントや野球教室の企画。
・役員や子供の少ない零細支部でも運営できるような人・モノ・金銭的補助。
・上記「５」の野球中継や野球教室番組等，野球関連の放送内容や機会の工夫を。
・プロでは，不祥事を起こさないこと。　下級生をしごくなど，封建的な雰囲気をなくすこと。
・現役プロ野球選手と身近に感じることができるようなイベントの実施
・指導者の意識改革と育成の強化

●球数制限等のルール変更について，ご意見をお聞かせください。

・投球制限は，時代の流れでしょうか
・選手の健康を守るため，球数制限は必要だと思う。ただ，それだけで良いかは疑問が残るのでよりよい制度にしてもらいたい
・大賛成です。小学生の中にも肘の手術をしたことがある人が何人かいると聞く
・小学生の投球制限は良いと思います。故障者を小学生のうちから出してはいけない。
・小金井支部は 2019 年度夏季大会より投球制限導入しています。
・球数制限については，賛成しつつ，一日１試合であっても選手が少ないチームの苦労や，トーナメント大会等におけるダブルヘッター時の投球制限について課題を感じる。
選手が少ないチームに対する配慮が必要である。チームの力（選手数）の差が浮き彫りになる。
・当然のことと理解しています。
・選手の将来を考慮するとよい指標だと思いますが，もう少し球数を増やしても良いと感じます。
・バッテリーの交代となると捕手も投手と同じぐらい投げることがあるので投手だけを制限しても健康面の解決にはならないと思います。

●その他，書き足りないことがあればお書きください。

・少年野球の指導の現場では旧態依然とする指導も散見される現代の子供たちにあった近代的な指導と振興が出来ないかと思う。
・地元支部の大会はもとより，様々な組織が子供たちのために大会を実施してくださることは，とてもありがたいことですが天候や学校行事により各大会日程がずれたり，詰まったりすることで，一日に大会をハシゴするチームもあり，せっかく投球制限を設けても，選手への負担はあまり変わっていない気もします。また，各大会役員や帯同するスタッフの負担も相当かと思われます。
・ボランティアで携わる役員も高齢化しつつあり，選手も役員も活動環境が厳しくなっていると感じます。
・チーム数や選手数が少なくなった今，このアンケートをしていただいた昭島連盟の皆様に敬意を表します。他支部の取組みを参考にさせていただくとともに，各支部と共同して発展できるようになることを望みます。
・サッカーのいいところを取り入れる。

私たち大人が子どもたちにしてあげられることは何か
ー「アンケート分析」に代えてー

2016 年から 3 年たち，再度のアンケートの必要性を感じました。各連盟，各チームで疑問に思い，こうあるべきと考え実行してきた結果，どうなったのか，それを知りたいと思ったからです。

また，この間に高校野球をはじめ，野球界への問題提起もなされて，以前より多くの意見が巷にあふれるようになり，皆さんの考えで変わった部分があったのではないかとも思ったからです。

今回アンケートに協力いただいたチーム・連盟の結果だけ見ると，選手数の減少傾向は止まったかのように見えますが，今回ご協力いただけなかったチーム・連盟で，選手数やチーム数の減少に悩んでいる例を多く見受けていますので，まだ厳しい状態は続いていると，私は思っています。

今回は，アンケート結果を分析することはしません。皆さんのご意見や考えを見て，互いに学びあえればよいと思います。

ただし，以下のことは，私は言っておきたいと思います。

「日本の野球というスポーツを，底辺から支えてきたのは，学童野球を通して子どもたちを育ててきた私たちである」ということです。それもボランティアです。また，指導者の多くは，野球に（野球指導に）素人でも，自分なりに勉強して監督やコーチになっている方が多いのです。今は子供と接する立場にない私は，頭の下がる思いでいます。

このような自負を抱きつつ，皆さんのアンケート回答や，ルール改正にまつわる多くの方からの様々なご意見を目にする中で，もう一度原点に立ち戻ってはどうかという考えが芽生えてきました。

私たちが，子どもたちが野球をできる環境を作っている，そもそもの目的は何だったのでしょうか。多分，各野球連盟や各チーム規約の目的部分に書いてあるとは思います。しかし，私は，子どもたち（小学生）が，野球をどう位置づけているかという視点も必要になっていると思っています。

子どもたちが将来なりたい職業・やりたいことを考える際に，野球だけではない選択肢もあるはずです。小学生時代は，最も多くの選択肢を考えることができる時期なのです。

野球は，小さいボールを手で扱うという面で，また，身体の発達段階を考えれば，非常に有意義なスポーツであると思いますし，頭も使わねばならない面でも，優れた競技だと私は思います。

一方，前述しましたように，小学生で野球を経験したから，将来もずっと野球を続けてい

けばよいとは思いません。野球で経験したことが，子供たちの未来に生かせれば，それでよいと思うのです。

子どもたちは，野球チームの中で，その技術的なことや体力的なことだけでなく，集団での過ごし方，大人との接し方に至るまで，様々な経験を知らぬうちに学んでいるはずです。

何よりも，私たちは，子供たちの未来の芽を摘んでしまってはいけないと思うのです。

そんなことを考えていく中で，即実現可能なアイディアではないかもしれませんが，私は，以下のようなことを提案していきたいと思っています。

１．（地域大会後の上部大会のルールとして＝都大会が至近な例です。）『地域代表のチームには，同地域の他チームから補充選手（投手・捕手に限る）を入れることを認める。』

70 球の球数制限の基本的な考えに反対する方はいないと思います。一方，各チームで複数の投手を育てる工夫をするきっかけになることは，よいことでしょう。

とはいえ，選手数の減少の中でピッチャーを複数育てることは至難の業です。70 球制限の試合を多々見ていますが，基本的には，選手数の多いチームが圧倒的に有利です。私たちのように限られた地域に根差したチームズづくりをしている団体では，選手数の減少を各チームの責任だけに押し付けることはできない状況になっています。小学生段階では，子どもが自分の足で通えるところに野球チームが存在していることは，非常に重要です。

ですから，人数の少ないチームでも，頑張って優秀な成果を出した選手は，優勝できなくとも，上部大会に補充選手として出場できるチャンスが与えられる制度ができれば，選ばれる選手にとって励みになるはずなのです。

70 球制限を機会に，考えてみてはどうかと思います。都市対抗野球では（理由はわかりませんが），同様なルールが実施されています。

２．（例えですが）『各競技団体で調整して，上部大会の開催期間を，野球は年度前半，サッカーは年度後半に開催するなどして，１年間に複数のスポーツ競技（スポーツに限りませんが）を楽しめる環境を作る。』

もちろん，必ず２つを選択しなくてもよいのですが，指導者が，子供たちが１年間の間に違うスポーツを選択することを，温かい目で見守る寛容さが必要になってきます。…アメリカでは，ずいぶん前から４シーズン制という考え方を実行しているそうです。シーズンによっていろいろなスポーツを経験することを想定しているのです。現状では即実行することは難しい面がありますが，特に身体の発達段階に差がある小学校時代には，いろいろなスポーツ（だけではないですが…）ができる環境を作ってあげるのも私たちの役割なのではないでしょうか。年齢が上がるにしたがって，自分に合ったスポーツに打ち込むこ

とができればよいのです。

私たち学童軟式野球の指導者は，小学生の子どもたちを，野球を通してどのように育てていったらよいのか，子供たちの未来に影響を与える役割の一翼を担っているという責任も感じながら，さらに模索していこうではありませんか。

2020 年 2 月

昭島少年野球連盟

会　長　　福 本 道 夫